

(様式)

鳴門西小学校：「学力・学習状況」改善プラン

1 学力向上推進員 職・氏名 ()

2 学力向上検討委員会構成

職名	氏名
校長 教頭 教務主任 研修主任 生徒指導主任 人権教育主事 特別支援教育コーディネーター 養護教諭 学力向上推進員	

3 現状・課題

学 力	<p>これまで、火曜日から金曜日の朝8：15～8：30までの「朝学習」に取り組み、基礎的な計算問題や漢字の習得を図り、児童は着実に力を付けてきている。また、作文読本を活用して優れた作文を読む機会を確保したり、作文や詩、俳句を書く機会を確保したりしてきた。そのことにより、書くことに対して慣れができており、国語辞典を積極的に活用する児童も増えてきている。</p> <p>休み時間に進んで本を読むなど、読書好きな児童は増えてつつあるが、学年の発達段階より易しい本を選ぶ傾向があるなど、読書量が必ずしも読解力の向上に直結していない。</p> <p>21年度の全国学力・学習状況調査の結果から、国語の「知識」については、全国及び県平均を上回っている。が、「活用」については県平均51.2%に対し、50.2%と1%下回っていた。特に「自分の立場や意図を明確にして話し合う」問題に関して正答率が低かった。自分の考えをもち、自分の言葉で論理的に表現することに課題がある。</p> <p>算数では6年生は「知識・活用」ともに全国・及び県平均を上回っている。全体的に知識・技能が身に付いている割合が高い。「活用」では、県平均52.9%に対し、57.4%と4.4%上回っていた。しかし、「示された解決方法を理解し、見方を変えた別の解決方法を考え、それを記述する」問題の正答率が低かった。自分の考えを記述することに課題がある。</p> <p>これらの結果より、本校児童は、基礎的・基本的学力は身につけているが、基礎的な知識や技能を活用することが十分できていない。授業改善のための具体的方策として、国語科では分かったことや自分の考えを様々な様式や字数に合わせて書く指導の充実を図る。内容を正確に読み取るための語句や語彙の指導を工夫するとともに、読書の楽しさを実感する読み聞かせなどに力をいれる。算数科ではグラフから読み取ったり、与えられた状況から考えたり、判断したりしたことを記述・発表するなどの学習をしっかりと積み重ねることが課題である。</p>
学 況	<p>21年度は、基本的な生活習慣の定着により、集中力ややる気を高め、学力定着・向上の素地を作ることを学年45分以上の数値目標に対して、それぞれ、75%、82%、57%の達成率であった。家庭学習が「0」という児童は皆無に近くなったが、宿題以外の自主勉強の仕方が分からない児童が多いと思われるので、学習方法や内容について保護者・児童との連携が必要である。</p>

4 目標等

(1) 学力について

重点目標：目的に応じて的確に読み取る力（読解力）とそれを表現する力（表現力）を育てる。				
具体的目標	数値目標	具体的方策	評価	改善点
読書好きの児童を育てる。	一人年間30冊以上を読む。 20年度は77%の達成率であったので、80%以上をめざす。	学年に応じた読書を奨励し、読んだ本を「読書カード」に記録させる。 教師の読み聞かせを継続して行う。 「チョボラ」の会による全学年児童への読み聞かせを継続して行う。	4・3・2・1	

日々の生活の様子や自分の思い、自分の考えを表現させる。	生活記録や感想、自分の考えなどを表現する場を何らかの形で1日1度はとる。	読み取ったことやあらすじをカードに書いたり、詩や俳句に表現したり、行事の感想や自分の思いを書いたりする機会を設ける。 書いたものは、全校児童や保護者にできるだけ多く紹介し、意欲付けを図る。 作文読本を活用し、効果的な作文の書き方、文法や文末表現などの技能を高める。 低学年から国語辞典を活用し、意味調べや短文作りなどで語彙力・読解力を養う。	4・3・2・1	
算数科において、基礎的な知識・技能を活用する力をのばす。	全国学力・学習状況調査及び徳島県学力調査の結果で「活用力」が県平均を上回ることをめざす。	計算を具体的な場面と結びつけて考えさせたり、計算結果の見通しをもたせることにより、計算を生活に活用できるようにさせる。 複数の解き方や考え方から共通点や相違点に気づかせ、数学的な見方・考え方を育てる。 他教科の学習内容にも、表やグラフを読み取る活動などを取り入れ、算数科の学習との関連を図る。	4・3・2・1	

(2) 学習状況について

重点目標：基本的な生活習慣を定着させ、家庭学習や読書の習慣化を図る。				
具体的目標	数値目標	具体的方策	評価	改善点
毎日の読書習慣を定着させる。	家庭読書時間の目標を、学年数×5分以上とする。	年間数回、家庭へのアンケートを実施し、定着状況を確認する。 学校便り・学年便り・保健便りを発行し、基本的な生活習慣の大切さについて知らせる。	4・3・2・1	
毎日の家庭学習の時間を確保させる。	家庭学習時間の目標を、学年数×10分以上とする。	個別指導の必要な児童や家庭については、個人懇談等でお願いをする。	4・3・2・1	
基本的な生活習慣の定着を図る。	就寝時刻・起床時刻を家庭で決めて守らせるとともに、朝食を必ずとる習慣をつける。		4・3・2・1	

※評価欄の上段には、各具体的目標における数値目標の達成状況について記入する。下段には、達成状況を「4 十分できた 3 概ねできた 2 あまりできなかった 1 できなかった」で判断し、該当番号に○を付ける。

